

# 令和5年度 法人運営目標・指針



## 法人運営目標

法人として、高齢者とその家族に笑顔と安心と明るい老後を届けることを目標に運営します。私たちアップル学園前は、ご利用者が人生の最後まで、住み慣れた家で、自尊心を持ち自立した生活を送れるように、ご利用者を中心に多職種で話し合い、共に支え合う。

お世話をするのではなく、評価した上で、出来ることはご自身に行っていただき、出来ないことに対してより適切な環境整備や介助方法を考える。自分のやりたいことが行えることは、自己肯定感に繋がり、生きる意欲が増す。

本年度の目標として、ご利用者本人の望む自立支援が行えているか、リハビリおよび介護のやり方を見直し、サービスの質を高める。さらに、介護サービスの対象者が団塊の世代となり、介護に対する期待も変化している。また高齢化の進行に伴い、医療度の高いご利用者や認知症の症状の強いご利用者が増えている。これらの問題に適切に対応するために、ICTの利用およびユマニチュードなどの新しい技術を習得し、サービスの効率化を図る。



## 法人運営指針

### 1、セクションを越えたサービス内容と業務工程の見直し

今年度は、法人全体として業務内容・行程を見直し、ICT活用による情報共有を行うため、法人運営指針をもとに、各セクションの垣根を越えて事業を進めていく。また運営連絡会議を「報告の場」から「議論の場」に役割を変更し、事業・プロジェクトの進捗状況の報告、意見交換を行えるようにする。

- ①入所フロア・ショートステイの機能を再編し、医療度の高いご利用者や認知症を患うご利用者の増加の背景を踏まえ、今後、介護の必要性が高まる「団塊の世代」の価値観を理解し、ご利用者の「参加」「活動」の動機づけとなるレクリエーションの実施や、ご利用者自身の役割を考えるなど「居場所」を見出し、幅広い受入体制を構築する。
- ②相談からサービス開始までの業務工程を見直し、受け入れまでの時間短縮かつご利用者の目的達成及び課題解決に迅速に対応するサービス提供体制を構築する。
- ③今後認知症・MCIを罹患するご利用者の増加を想定し、中核症状を理解した上で、どのようなBPSD（行動・心理症状）にも対応できるように職員の認知症ケアスキルアップを図る。（認知症ケア実践プロジェクトの実施）
- ④ICT機器や介護ロボット、見守りセンサーなどの導入を検討し、サービス効果の見える化、情報共有・業務効率化・生産性向上に取り組む。
- ⑤居宅支援・訪問系サービスとの連携・情報共有、住環境の整備を行い、重症化リスクの高い疾患の理解・予防を促すことで、ご本人が望む「すまい」での在宅生活への意欲を高めていく。
- ⑥感染症、災害などについて、企業・学校法人そして地域との連携を強化し、対応しうるネットワークを構築する。

### 2、人材育成の積極化

それぞれのセクションで、新しい知識・技術の習得を目指せる環境づくりを行い、職員の自己実現、モチベーション向上に繋げるよう取り組む。

- ①認知症ケア、繰り返す重症化リスクの高い疾患（骨折・心疾患・脳血管疾患・誤嚥性肺炎など）に関わる研修を実施し、職員の知識・技術向上を目指す。
- ②外部研修を活用するなど、新しく習得した知識・技術を、発表・講義などを通じてフィードバックすることで、職員全体のスキルアップ及び自身のスキル定着化を目指す。（まとめる力、言語化する力をつける）

### 3、経費節減

物価上昇に伴い必要経費の高騰が予想される中で、水道光熱費、ガソリン代、必要物品の使用量や在庫状況なども含め、見直しを行う。

### 4、新たなサービス・価値の創造

ご利用者自身が「活動」「参加」に自発的、積極的に取り組める新しいサービス・価値を検討、実施する。